

コミュニケーション能力を高める中国語教育の研究

—— 意欲と興味を高める中国語の授業を目指して ——

前上海日本人学校浦東校 教諭

埼玉県上尾市立瓦葺小学校 教諭 品田 瞳

キーワード：中国語教育，外国語活動，国際理解教育，国際交流，総合的な学習の時間

1. はじめに

「中国語が話せたらいいのに」。これは、中国を訪れた多くの人がもつ願いである。日本人学校に通う児童生徒の思いでもあり、このことに対する保護者の期待も高い。

上海日本人学校浦東校では全学年において週1時間の中国語の授業が行われ、中国語のレベルに合わせてクラス分けをして授業を行っている。中国語を学習することは上海日本人学校の特色である一方、カリキュラムや題材については、独自に開発していかなければならない。児童生徒の発達段階に合わせた中国語の活動となるよう、研究していく必要性を感じた。

発達段階に即した中国語の題材開発を行うことで、児童生徒が豊かなコミュニケーション能力を身につけることができることを目的として、調査研究を行った。

2. 上海日本人学校浦東校の中国語教育の現状

(1) 上海日本人学校における中国語教育の位置付け

小学校3年生以上は、総合的な学習の時間の1時間に位置付けられている。

(2) 目的

- 中国語の習熟度に応じたクラス編成による学習を進め、実践的に中国語を学び合うことができるようにする。
- 中国の文化や生活についての学習を取り入れ、中国に親しむことができるようにする。

(3) 指導形態

上海日本人学校浦東校では、週に1回中国語の授業を実施。中国語の習熟度別にクラス分けをし、少人数の中で一人一人の実態に合わせた学習を展開している。

(4) 指導者

語学学校から派遣された中国人講師が中心となって授業を進めている。中国語を教えることに知識と経験を持っており、日本語も上手に話せる講師ばかりである。学校の教育目標に向かって、よりよい授業にしようと協力をしてくれている。

しかし、普段は主に成人に1対1で授業をしている講師である。教材研究や授業研究に充てられている時間がほとんどなく、講師一人一人の力量ややり方に任せているのが現状であった。話を聞くと、やはり大人数を相手に授業をする難しさや、児童生徒の発達段階に応じた授業づくりについて難しさを感じている講師もいた。



中国語の授業風景

また、学級担任は中国語の授業中、児童生徒の様子を見て回り、一緒に授業に参加したり、助言を行ったりするなどの指導が主となっている。

(5) 児童生徒の実態

児童生徒の実態は大きく分けて以下のように分類できる。

①中国語に初めて触れる児童生徒

中国語に初めて触れる児童生徒なので、発音、語順などの理解が難しい。簡単な挨拶や買い物などに必要なフレーズを言うことはできる。意欲は高く、発音練習にも積極的に取り組む児童生徒が多い。

②中国滞在歴が長く、中国語に馴染みが深い児童生徒

中国滞在歴が長く、中国語の音韻には違和感なく触れることができる。簡単な挨拶や買い物などのフレーズが言える。また、本校での学習で身に付けた単語などを知っている。意欲が高くノートを一生懸命とる児童生徒がいる一方、目標が持てず中国語力も伸び悩んでいる児童生徒もいる。また、中国や中国語に対して消極的なイメージを持つ児童生徒もいる。

③保護者や同居者に中国語を母国語とする家族がおり、中国語に親しんでいる児童生徒

生活の中に中国語があるため、中国語を自然と耳に入れて聞き取れる児童生徒が多い。その一方、難しい言い回しが理解できなかったり、書くことが難しかったりする児童生徒がいる。自分の言葉として活用できるもう一段階上の中国語力までには、なかなかステップアップできない児童生徒である。

④両親が中国語を母国語とし、家庭で中国語を話している児童生徒

両親が中国語を母国語としており、家庭で中国語を話しているため、中国語を自由に使いこなすことができる。授業も中国語のみで進めることができる。運動会や現地校交流など、中国語を使う行事の場面で活躍する児童生徒がいる一方、普段は進んで話しながらない児童生徒もいる。また、話はネイティブ並だが書くことが苦手な児童生徒も多い。

全体の児童生徒の傾向として、中国語の授業にはどの児童生徒も先生や友達の話をよく聞き、ノートをとる。しかし、進んで話したり、習ったフレーズを活用したりして積極的に話そうとする児童生徒は限られている。また、意欲が持てない児童生徒はなかなか中国語が身につかないのが実情である。

日本人学校にいる児童生徒のほとんどは日本語のみで生活できる環境にあり、必要に迫られていないという実態がある。その中で、児童生徒一人一人が、いかに中国語に目標を持って取り組むかが課題と考える。



中国語の授業風景

3. 実践とその結果

課題に対し、以下のような実践を行った。

(1) アンケート調査分析を行い、児童生徒の興味関心をとらえ指導に活かす

児童生徒の実態把握と課題改善のために、全校児童生徒を対象に中国語に関するアンケートを行った。

アンケート結果より見えてきたもの (概要)

①入門初期や中国語が話せる児童生徒ほど学習意欲が高い。

入門期の意欲を長く持続させること、中級の児童生徒に充実感のある授業を提供することが授業改善につながる。

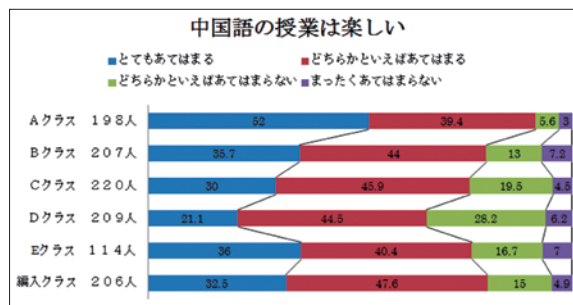
②中国語での活動での興味は、発達段階によって違う。

小学校低学年：歌やゲーム

小学校高学年：ゲームや文化

中 学 部：友達との会話や文章を読むこと

アンケートを通じて興味の特性がわかった。それに応じて、例えば高学年ではゲームでの活動を一時間の中に取り入れた授業展開にしたり、中学部では、現地で使用している教科書を参考教材として活用したりした。児童生徒の興味関心に即して、授業の活動内容を工夫した。



アンケート調査結果の一部

(2) 学校における中国語教育の全体計画・年間計画の作成と評価の整備

- ・学校における中国語教育の全体計画を作成し、それに沿った年間計画の作成・評価の整備を行った。整備することで、教員・講師が共通の目標に向かって指導にあたるようになった。
- ・小学部において全学年のテキストを変更した。これまで、小学部3年生から6年生までで一冊のテキストを使用してきた。テキストが一学年一冊になったことにより、学年の実態に応じた指導が可能になった。

(3) 教員、中国語講師が目標を理解し、授業の向上を行う

授業を進める講師とのやりとりで一番難しいと感じたのは、本校の中国語の目標は「中国語を通したコミュニケーションをできるようにすること」であることを理解してもらい、それを授業に反映させることだった。講師たちは普段、大人に「中国語を教える」ことはしている。それと、「中国語を通したコミュニケーションをできるようにすること」は同じではない。外国語活動において示されている一つの授業の形態も参考にしながら授業づくりに取り組んだ。外国語活動の展開例を取り入れることは、中国語の授業にも大変有効だった。

(4) 中国語会話授業の題材開発

児童生徒のコミュニケーション能力を高めるための題材開発を行った。

①「北京で使おう！」6年

修学旅行で北京を訪れるにあたり、「行く場所の言い方を覚えること」「お土産を買うための買い物表現を学ぶこと」を目標として、各クラスで2～3時間扱いの授業を行った。各レベル別クラスにはTTとして中国語担当教員が入り、中心となって授業を進めた。

授業では、ゲームを取り入れたテンポの良い授業展開をし、楽しくコミュニケーションができる工夫を行った。児童は積極的に授業に取り組み、実際に修学旅行で活用している姿が見られた。

②「現地校交流で使おう！」世界の小学生を知ろう！アンケート大調査 6年

上海日本人学校では、現地の同級生と交流する行事がある。6年生の授業において、同じ年の中国の学生がどのような生活をしているかをアンケートするという学

世界の小学生を知ろう！生活アンケート大調査！

① 質問は中国語でしましょう。
 ② もしわからなかったら、アンケート用紙を見ながら一緒に書かせてもらってください。
 ③ 回答がわからなかったら、アンケート用紙に記入してもらってください。
 ④ あとで調査結果をまとめるための大事な資料です。正確に記入しましょう。

記入した人 年 級 名 前

インタビューした学生 遼平青梅中学校 さん
 ※カタカナでもよいです。わからなかったら書いてもらいましょう。

1. 一日どのくらい勉強していますか。
 (家庭学習)
 ni : yitian xuexi duoshao shijian
 你今天学习多少时间？

2. どんな遊びが好きですか。
 ni : xihuan wansier shenme
 你喜欢玩什么？

3. 中国と聞いて思い浮かべる文化や食べ物
 shuoqi : zhongguo ni neng xiangdao shenme wenhua, shiwu ?
 说起中国你能想到什么文化、食物？

4. 日本と聞いて思い浮かべる文化や食べ物
 shuoqi : riben ni neng xiangdao shenme wenhua, shiwu ?
 说起日本你能想到什么文化、食物？

5. 好きな教科は何ですか。
 ni : xihuan shenme ke
 你喜欢什么课？

6. 一番やりたい職業はなんですか。
 ni : xihuan zuo shenme gongzuo
 你想做什么工作？

7. 自分で聞いてみたいこと
 質問
 中国語
 答え
 ありがとうございました。

現地校交流でのワークシート

習を行った。そのために、事前に中国語の授業でインタビューの仕方を練習した。中国語が得意でない児童も、ワークシートに中国語を書くなどして一緒に回答できるようにした。

まず、事前学習の際は、同じクラスの児童同士で実際に中国語でインタビューをした。普段は恥ずかしがる児童も、インタビューをするという目的があると、積極的に練習したり、楽しくアンケートに取り組む様子が見られた。

現地校交流の際は、学習した言葉を使って中国の学生に積極的にインタビューをすることができた。

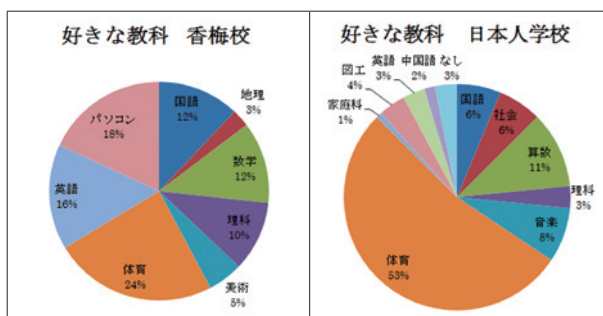
さらに、総合的な学習の時間に双方のアンケートデータをまとめ、日中を比較し、考察した。これらの比較で見つけたことを学習発表会で発表する活動に繋げることができた。

4. おわりに

何らかの事情や興味があって大人が語学を学習することと、子どもが語学を習得していく過程には、大きな違いがある。小学校段階での中国語学習は、まだまだ研究されていない分野である。しかし、上海だけでも5万人を超す日本人とその家族が滞在している環境において、中国語学習は大事にしていくべきである。

言語を習得することは、その国の文化や風習なしには成し得ない。子どもたちが興味を持って中国の

文化や言語に触れ、将来国際社会で活躍する人材を育成するためにも、今後も中国語学習をさらに充実させていく必要がある。



調査結果の一部